

医療の道へ一步踏み出す

南あわじ・看護専門学校で入学式



宣誓文を読み上げる新入生の森高愛命さん＝南あわじ市広田広田

平成淡路看護専門学校(南あわじ市広田広田)で5日、入学式があった。桜が咲きツバメが飛び交う学びやで、10期生40人が医療の道へ一步を踏み出した。

今年の入学者は、半数が淡路島内出身。幅広い年齢層の多彩な人々が集まった。学生たちは3年間、看

護の技術や姿勢を学ぶ。

式では、北河宏之学校長が式辞として「看護職は楽でも甘い仕事でもない。けれども、身に付けたことを社会に生かすことで、とても感謝される」と仕事の魅力を語りかけた。

地元、南あわじ市の守本憲弘市長も出席し「介護や

福祉といった幅広い分野の方との連携が求められる。心配りができる医療人に成長していただければ」と祝辞を述べた。

新入生として宣誓文を読んだ森高愛命さん(18)＝洲本市Ⅱは「幼稚園の頃に通っていた診療所の看護師さんがとても優しく、憧れた。私も丁寧な声かけで患者さんの不安を和らげられる看護師になりたい」と話した。

(劉 楓音)